

生いっか

SHINGON

【特集】

お寺の行事に参加しよう④

りょう そ だい し ほう お ん
—両祖大師を知り報恩の祈りを捧げる—



Vol.
96

真言宗智山派

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目次

- 今日の法語 幸田惠敏……………2
- 智山寺院探訪 城向山照光寺……………3
- 特集 お寺の行事に参加しよう④……………6
- お大師さまとご信仰 田村宗英……………10
- 教えは伝わる
一真言八祖解説一 別所弘淳……………11
- 図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏④」
え・悟東あすか……………12
- ゆーけいの写仏をするよこび
牧 有恵……………14
- 日本の四季を切り取る十七文字
星野高士……………15
- 総本山の便りをお知らせします……………16
- らせんのなかのブツダガヤ 中嶋亮順……………18
- ごくらくらくご 三遊亭竜楽……………19
- 御詠歌で綴る十善戒の教え
佐々木真光……………20
- 読者アンケートから・おしらせ・編集後記……………22
- 真言宗智山派出版物のご案内……………23
- 桃山の息吹に触れる 安原成美……………24
- お大師さまカルタ 川崎一洸・三船毅志……………26
- 花に聞く 仏に聞く 佐々木隆元……………28
- 仏教と妖怪 今井秀和……………29
- 私のお大師さま
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko 内藤理恵子……………30
- ご本尊さまと出会う
小笠原隆浩・黒川広志……………31

■ 仏教について	■ 仏教と文化
■ わたしたちの生活と仏教	■ お知らせ

表紙「朝の三多気の桜」三重県津市

奈良県との県境に位置する美杉町の三多気の桜は、伊勢本街道から真福院に通じる参道の桜並木である。桜のトンネルが続く長閑な山村の山道を登ると、山門にたどり着く。そこから振り返ると、朝陽に照らされた三多気の桜が、水が張られた田植え前の棚田に影を映していた。

表2「緑鮮やかな海苔ひび」

リアス式海岸が続く五ヶ所湾は、おおさ海苔の産地である。厳冬期に育った海苔が、ひび（網）全体を覆い隠すようにびっしりと付着していた。潮が引くと、まるで緑の帯を敷き詰めたように海苔ひびが浅瀬一杯に浮き上がり、海の青さと海苔ひびの鮮やかな緑が、漁村の風景を一層印象的にする。

撮影・解説／山梨勝弘



知恩

私たちは、誰かに支えられて生きています。なかには、「誰に頼らなくても生きていける」と思っている人はいても、実際に自分の力だけで生きていける人などいません。

自分がいろいろな人に支えられていることを知れば「ありがたい」という感謝の心が現れます。

自分が支えられていることに気付く「おかげさまで……」と自然に言葉が出てくる、心豊かな毎日を送り続けていきたいものです。

今日の法語「知恩」

幸田惠敏（埼玉県ときがわ町・光明寺）



寛政5年（1793）に建立された照光寺本堂。長い階段の参道を上がると、重厚な本堂が来山者を迎えてくれます。



智山寺院探訪

伊那諏訪八十八霊場十七番・十九番札所・諏訪三十三観音霊場三十一番札所
諏訪霊場百番札所（西十一番・西二十四番）・中部四十九薬師霊場三十一番札所

長野県岡谷市

城向山 照光寺

段々と寒さが増してくる十一月、錦秋の山並みを横目に、長野県の観光地としても名高い諏訪湖が見えてくると、程なくして岡谷駅に到着しました。今回訪れる照光寺は岡谷市の中心地に建つ古刹で、岡谷駅から徒歩四分という目と鼻の先にあります。

県道前、照光寺の入り口に立つて参道を見上げると、色づく紅葉や銀杏の木々が連なり、奥の伽藍まで続きます。その石段を上がるとすぐに蚕霊供養塔が見え、この岡谷の地が養蚕の盛んな地域であったことを窺い知ることが出来ます。そしてさらに石段を上がると、次は一字のお堂かと見紛うような意匠を凝らした水屋が続き、山門をくぐる前から見どころの多さに驚きます。

諏訪湖を望む照光寺

「城向山」の山号が書かれた扁額の山門をくぐると、正面には江戸時代に再建された照光寺の本堂が迎えてくれました。雨上がりの境内は、紅葉した木々の雨露により、その色合いが一層引き立っていました。

照光寺は、開創の記録が焼失してしまい、その起源ははっきりと分らないそうですが、創建当時のご本尊さまであった薬師如来を調べたところ、白鳳四年（六七五）の銘があり、『延喜式』の中にもこの地に寺院が創建されていた記載があることから、約一三〇〇年の歴史があるといわれています。

また江戸期には、常法談林所といわれる学問寺として、多くの僧侶



本堂へと続く参道を登るだけでも、来山者の目を楽しませてくれます。



(左) 本堂のご本尊さま金剛界大日如来（岡谷市文化財）。(右) 本堂右手には、弘法大師ご尊像が祀られるとともに、先代ご住職で、総本山智積院化主であられた宮坂宥勝猊下のご供養が毎日なされています。



生糸を取るためには沢山の蚕が必要となるため、その蚕を供養する目的で蚕霊供養塔が建てられました。毎年4月29日は蚕霊供養の法要が営まれ、多くの方で賑わいます。

写真提供／照光寺



諏訪神社とのゆかりを示す照光寺の寺紋「桐の葉紋」。境内の至る所でこの紋が見られます。

を指導・育成する寺院でした。そして近代化の波により、養蚕の一大生産地域として発展した平野村（岡谷市の前身）の中心的な寺院として栄え、現在に至ります。

照光寺は、眼下の諏訪湖の遠い対岸に位置する高島城（当初は湖城でした）から見て、真西に当たるため、「城向山」という山号がつけられたそうです。そうすると、諏訪の城下町から、あたかも西方極楽浄土を仰ぐところに照光寺があつたとも考えられます。実際に、諏訪湖をはさんで東西に高島城と照光寺が描かれた古図面を見せていただいて、その思いを強くしました。

また照光寺は、諏訪大社との縁も深く、かつては諏訪下社の別当寺（神社を統括する寺）であつた神宮寺の一等末寺でした。明治の廃仏毀釈で神宮寺は廃寺となりましたが、神宮寺ゆかりの貴重な仏像や宝物は照光寺に移管さ

れ、その多くは市や県の文化財に指定されているとのことです。

学問寺、開かれたお寺として

照光寺は常法談林所という格式の学問寺としての役割を果たしてきました。近代になると僧侶だけでなく一般の人々に向けて学びの寺としてその門戸を広げてきました。釈宗演や徳富蘇峰など、往時講演されたさまざまな著名人の揮毫が数多く残されています。もちろん現在でも、一年を通じて定期的な行事をはじめ講演会や各種の研修、あるいは寺子屋などで老若男女多くの方が訪れます。

「先代の宥勝長老が住職就任時に始めた照光寺夏期講座という文化講演会や写経、あるいは音楽や狂言などを楽しむ催しは、今年で五十回をむかえました」と宮坂宥洪ご住職はおっしゃいます。

「寺院は地域において学びの場、心の拠り所として中心的な役割を果たしてきました。私は現在兼務している成田山蓮華不動院の住職になって平成三十年でちょうど三十年になります。そこで最初の数年間、年中毎日欠かさず護摩を焚き続けました。檀家が一軒もなく寂れたお寺だったので、二年ほどで境内一帯に六百基ほどの玉垣、八十数本もの近衛灯籠が立ち並ぶようになりました。今は真言

宗智山派の研究機関である智山伝法院の院長、そして国際奉仕団体であるロータリークラブの地区ガバナーなどをつとめています。かつて毎日護摩を焚き、そのつどお参りの方々に法話を聞いていただいた経験のおかげで今があると思っています」との貴重なお言葉をいただきました。

平成の阿弥陀堂

照光寺の先代ご住職は、真言宗智山派元管長・総本山智積院化主第六十八世の故宮坂有



平成の意匠を凝らした二十三間廊の阿弥陀堂。両翼に永代供養棟を併設し、これから多くの御霊を供養していきます（右上の仏さまは、ご本尊の阿弥陀如来）。

勝猊下です。ある檀家の方より照光寺にそのご遺徳を偲ぶご尊像を造顕してほしいとのことで、ご寄進をいただいたそうです。そこで現ご住職の発願により、猊下のご尊像と併せてこの際、他に例がない智積院第一世の玄宥僧正のご尊像の二体を奉安する阿弥陀堂がこのほど建立されました。

照光寺の山号「城向山」すなわち「城が向かう山」にふさわしい西方浄土の寺として阿弥陀如来を勧請したいと、ご住職は晋山以来考えておられました。それがようやく実現したとのこと。

さらにお話をうかがうと、宥勝猊下は、かつて諏訪湖は大日如来と考えられていたという論文を発表されていました。諏訪上社の本地仏（神さまの本来の姿）は普賢菩薩、下社の本地仏は観音菩薩なのですが、それは胎蔵曼荼羅の中台八葉院の位置関係に一致します。では、中尊大日如来にあたる諏訪湖の西方に位置する照光寺はどうか。ここに阿弥陀如来がいなければならぬことになります。したがって、このお堂の建立は先代の遺志でもあったと、ご住職はおっしゃいます。建立にあたっては、伝統的な技法を踏まえ、LED照明等の最先端の技術を最大限に生かしたものにしたいそうです。

仏教学の研究者として各方面で教鞭を執られてきたご住職は、最後に「仏教学とは、



お寺が、地域の中で中心的な役割を果たすことの重要性和、そのお寺をあずかる者としての覚悟を語ってくださった、宮坂宥洪ご住職。

人々に還元されてこそ意味があるのです。何とありがたいことだろうと実感してもらえ研究をしていきたい」とおっしゃっていました。製糸業で一大発展を遂げた地域を見守り、学問寺として僧俗分け隔てなく学びの場を提供し続ける照光寺のご住職のおっしゃるお言葉は、とても重く私の心に残りました。

（智山教化センター所員／倉松隆嗣
撮影／清水健）



ACCESS アクセス

城向山 照光寺

〒394-0028 長野県岡谷市本町2丁目6-43

TEL 0266-22-2314

JR中央本線岡谷駅より徒歩約4分

中央自動車道岡谷インターより国道20号線を岡谷市方面へ約8分



真言宗智山派では、弘法大師空海さま（右）を宗祖、興教大師覺鏐さま（左）を中興の祖として崇めています。どうぞ両祖大師のご宝号「南無大師遍照金剛」「南無興教大師」をお唱えして、尊い教えを伝えたお二人のご恩に報い、手を合わせて祈りを捧げましょう。

弘法大師像（右）、興教大師像（左）ともに総本山智積院蔵

特集

お寺の行事に参加しよう④ — 両祖大師を知り 報恩の祈りを捧げる —

宗祖「弘法大師空海」さま

みなさまは菩提寺にお参りされたとき、中央のご本尊さまの両脇に、椅子に座られた僧形の像やお軸をご覧になったことはありますでしょうか。もしくは、お仏壇に、お二人のお姿が祀られているというお宅もあるのではないのでしょうか。

このお二人が、真言宗智山派の教えを今に伝えた両祖大師、宗祖「弘法大師空海」さまと中興の祖「興教大師覺鏐」さまです。このお二人のお名前はご存知の方も多いかと思いますが、この両祖大師がいたからこそ、今を生きる私たちのもとに真言密教の教えが伝わっているのです。

お大師さまの名で親しまれる弘法大師空海さまは、宝亀五年（七七四）の六月十五日に、讃岐国屏風ヶ浦（現在の香川県善通寺市）にて誕生されました。父は讃岐国の佐伯氏、母は阿刀氏の出身であり、幼名を「真魚」といいました。非常に聡明であった弘法大師空海さまは、十八才で大学へ入り、役人として立身出世するための勉強に励みます。しかし、学問を修めても世の人々を救うことはできないと感じ、仏教へと帰依するのです。修行を重ね奈良の久米寺で密教經典である『大日経』と出会ったものの、当時の日本にはそ

の教えを授けてくれる人はいませんでした。そこで弘法大師空海さまは、師を求めて唐へと渡るのです。そして長安（西安）の青龍寺で恵果阿闍梨という師と出会い、わずか二年足らずで密教の奥義を余すところなく受け継ぎました。日本へと帰った弘法大師空海さまが真言宗を開宗し、大いに活躍され、その教義を広め伝えたのです。そして承和二年（八三五）三月二十一日、その生涯を終え高野山でご入定する（永遠の禪定に入る）のです。

中興の祖「興教大師覺鑒」さま

私たちが中興の祖と仰ぐ興教大師覺鑒さまは、お大師さまが入定されてからおおよそ三百年ほど後の嘉保二年（二〇九五）六月十七日に、肥前国藤津荘（現在の佐賀県鹿島市）においてお生まれになりました。父は平将門の血筋を引く豪族である伊佐平次兼元で、幼名を弥千歳磨（やちせん）といいました。幼少のころに、尊敬する父を叱責する役人を見て、父よりも高貴な者がいるのか、と疑問をもちます。そして、父よりも領主が偉く、その領主よりも天皇、さらに天皇よりも大日如来が尊いと知り、仏門へと進むことを決めました。十六歳で出家の儀式である得度をした興教大師覺鑒さまは、やがて高野山へと上ります。当時の高野山は、弘法大師空海さまのご入定から時

が過ぎたこともあり、衰退の一途をたどりつつありました。興教大師覺鑒さまはその状況を憂い、弘法大師空海さまの教えを再興させるためにさまざまな改革を行います。そして、ついには高野山にかつての活力を取り戻すに至るのです。しかし、改革には反発がつかまとうもので、この改革を快く思わない一部の僧侶の激しい反対により高野山から根来山へと移り、教学の復興に尽力しました。そして康治二年（一一四四）十二月十二日にご入寂されたのです。

両祖大師と総本山智積院

弘法大師空海さまの教えは、興教大師覺鑒さまによつて根来山にも伝えられました。その後根来山は、室町期には一大伽藍を有する宗教都市となっていました。その中には多くの寺院が立ち並び、後の真言宗智山派総本山の礎となる智積院もありました。そして学僧や僧兵が大勢暮らし、勢力を増していきました。しかし、その力を危惧した豊臣秀吉によつて天正十三年（一五八五）に焼討ちに遭います。智積院の住職であった玄宥僧正はその難を逃れ、慶長六年（一六〇二）に徳川家康から京都東山に寺領を賜り、智積院は現在に至るのです。このような経緯により、私たちは連綿と続く両祖大師の教えを今もいまだ

くことができます。ですからそのことに感謝し、両祖大師に手を合わせるのです。

ご宝号と帰依の心

南無大師遍照金剛——。南無興教大師——。私たちは『智山勤行式』というお経のなかで、このご宝号をお唱えしています。弘法大師空海さまのご宝号である「南無大師遍照金剛」の遍照金剛とは、この世を遍く照らし出す金剛のような尊い存在、つまり大日如来を指し、密教の正当な後継者となったときに弘法大師空海さまが恵果阿闍梨から授かったお名前です。両祖大師のご宝号に共通する



両祖大師のご誕生をお祝いする青葉まつりの法要で、金堂へと歩を進められる小峰一允猊下。

「南無」とは、インドの古い言葉であるサン
 スクリット語の「ナモ」を音写したもので、
 全身全霊をもって頼りとし、おすがりする帰
 依の心を表しています。私たちのもとに真言
 密教の教えが受け継がれているのは、両祖大
 師の功績によるものに他なりません。ご宝号
 をお唱えし、両祖大師にまつわる年中行事に
 参加することで、お二人への深い感謝と、帰
 依の心を育んでいただければと思います。

両祖大師の年中行事

今回取り上げる両祖大師の報恩行事とは、



智積院の青葉まつりでは、境内で山伏による柴燈護摩が行なわれます。

私たちの教えを開宗し継承してきたお二人に
 感謝し、その恩に報いる行事のことを指しま
 す。両祖大師のご生誕を祝う「青葉まつ
 り」、興教大師覺鑒さまのご入寂された日に
 向けて行なわれる「冬報恩講」、そして弘法
 大師空海さまがご入定された日に勤められる
 「正御影供」をとおして、お二人の功績に深
 く感謝するとともに、私たちが受け継いでき
 た教えを見つめ直し、生きる力へと繋げてい
 ただきたいと思えます。みなさまに縁のあるご
 寺院でこの報恩行事を執り行っているところ
 もあるかと思いますが、今回は総本山である
 智積院でどのような報恩行事が行なわれてい
 るかを紹介いたします。



冬報恩講では、入り口の冠木門から奥の密厳堂まで、いくつもの提灯が境内に連なり、凍てつく参道をやさしく照らします。

青葉まつり

青葉まつりは六月十五日、両祖大師のご生
 誕をお祝いするために営まれる行事です（弘
 法大師空海さま六月十五日、興教大師覺鑒さま六月
 十七日）。両祖大師のお生まれになった六月の
 中頃は、青葉の美しい時節であることから青
 葉まつりと称されています。智積院の青葉ま
 つりは、化主猊下を中心としたお練り行列か
 ら始まります。美しい雅楽のしらべととも
 に、本坊から化主猊下を乗せた手輿の列が山
 伏の先導のもと進んでいき、金堂において化
 主猊下大導師のもと法要が行われます。その



12月11日、密厳堂において、厳しい寒さのなか、ただひたすらに陀羅尼という長い真言をお唱えする陀羅尼会が営まれます。

後、金堂の前にある柴燈護摩道場において、大峰山での修行を終えた僧侶と修験者らによって柴燈大護摩供法要が行われます。お二人のご生誕を祝う法要のほかにも、名勝庭園の無料拝観、諸堂の御朱印巡りなどさまざまな催しをとおして、両祖大師に親しんでいただければと思います。

冬報恩講

冬報恩講は、興教大師覺鑊さまがご入寂された十二月十二日を期して行われる報恩行事です。十一日から十二日の間に行われる三つの法要を合わせて冬報恩講といえます。十一日の「出仕論義」は、真言宗の教義について

化主猊下より出題された論題を、問答によって論義する法要です。『大日経疏』というお経に基づいて出題される論題は、真言宗の教えに深く精通していなければ答えることはできません。十一日の夕方から十二日の深夜にかけて行われる「陀羅尼会」は「仏頂尊勝陀羅尼」という長い真言を、興教大師覺鑊さまが祀られる密厳堂でお唱えします。冬の冷たい空気に途切れることなく響く陀羅尼に、荘厳なものを感じる事ができるでしょう。そして、冬報恩講を締めくくる十二日に行われる法要が「御法事」です。冬報恩講の間は、冠木門から金堂、そして密厳堂への参道両側に提灯が掲げられます。

正御影供



正御影供では、弘法大師空海さまの大きな掛け軸（御影）をお祀りします。

弘法大師空海さまがご入定された三月二十一日に行われるのが「正御影供」で、弘法大師空海さまの御影をかざることから正御影供といえます。この法要では「二箇法要」という盛大な法要が執り行われます。声明という雅やかなお経の旋律に彩られたこの法要は、化主猊下ご導師のもと智積院で研鑽を重ねた修行僧によって執り行われます。お釈迦さまの生まれたインドから唐へと渡り、弘法大師空海さまによって日本にもたらされた声明。その朗々とした響きは、真言密教の



正御影供法要では、一人前の僧侶になるために、智山専修学院で一年間学んだ多くの僧侶たちが、心を込めてその役を勤めます。

両祖大師の年中行事に参加しよう

智積院で執り行う報恩行事は、多くの僧侶が出仕する盛大なものであり、普段はなかなか触れることのできない真言密教の真髓が垣間見える大変貴重な機会です。皆さまの菩提寺や縁のあるご寺院でもこの報恩行事を行っている場合がございます。両祖大師への感謝の気持ちを新たに、今日まで続く尊い教えに親しんでいただき、ぜひ両祖大師の年中行事にご参加ください。

（智山教化センター所員／中嶋亮順）

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力SENSE」第九十六号 平成三十一年三月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日) 発行 定価一〇〇円(本体九三円)
発行人／芙蓉良英 編集／智山教化センター 発行所／〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四 総本山智積院内 真言宗智山派宗務庁

第3回 智積院写真コンテスト

智積院境内で撮影された
作品を募集します。
みなさまのご応募
お待ちしております。

☆応募テーマ

智積院を映す～心に残る春夏の景色～

☆撮影、応募期間

2019年3月1日～2019年8月31日

※詳しくは総本山智積院ホームページの「第3回 智積院写真コンテスト開催のお知らせ」をご覧ください。

<http://www.chisan.or.jp/info/kontesuto03>



写真は第1回写真コンテストの入選作品です

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

宿坊 智積院会館は新築工事のため、平成30年12月13日(木)より宿泊利用並びに会館利用を休止しております。これまでに以上にご利用いただける宿坊となるように準備を進めております。工事中はご不便をおかけいたしますが、あらかじめご了承ください。新しい智積院会館は、2020年春頃の開業を予定しております。

写経のついで
毎月21日 13時より
於 金堂
納経料 千円
智積院阿字観会
毎月12日 14時より(受付13時より)
※8月と12月は8日 14時より
於 智積院金堂地下ホール
(参加灯明料五百円・要事前申込)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)
※8日が土日祝の際は第一金曜日
3月8日(金)
4月8日(月)
※花まつり灌仏会法要 11時30分より
5月8日(水)
やすらぎ寄席
毎月第3木曜日 18時30分より
(3月21日は祝日のため、28日に開催いたします)
於 本堂(木戸銭千五百円)
3月28日 談志一門会
4月18日 三遊亭
5月16日 談志一門会
真福寺阿字観会
昼の部15時・夜の部19時より
於 本堂(無料・要事前申込)
3月5日(火) ※夜の部18時より
4月23日(火) 5月28日(火)
愛宕薬師フォーラム
2月13日(水) 14時より
「日本の妖怪と神仏」
妖怪文化にみる日本人の宗教意識―
大東文化大学非常勤講師―
今井秀和先生

総本山智積院HP

<http://www.chisan.or.jp/>



Facebook



智積院

検索